

令和6年度外部評価会 集計表(農業者用)

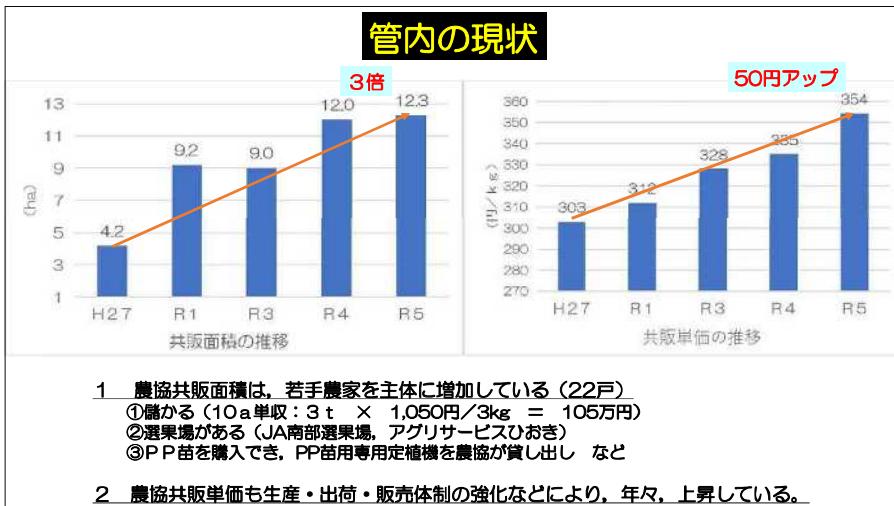
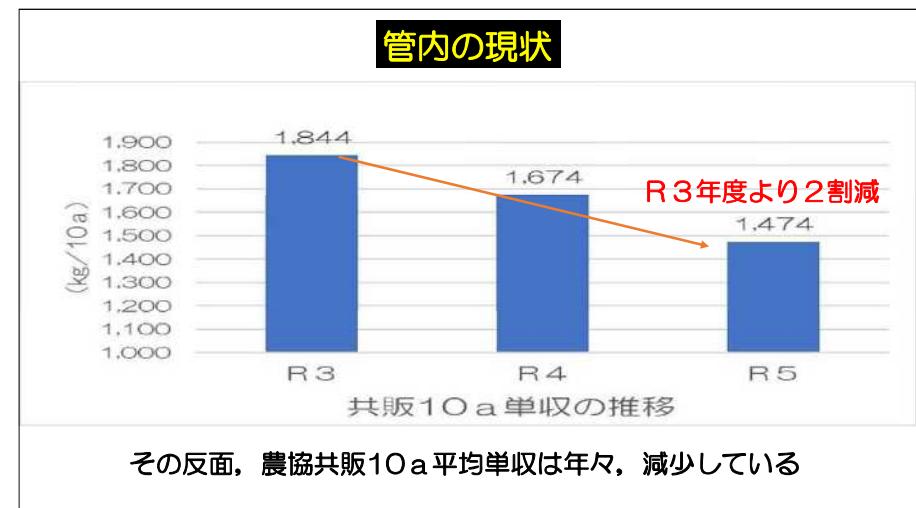
所属名：鹿児島地域振興局農政普及課日置市駐在

課題名① 日置地域を支える担い手の育成～担い手への経営安定支援～						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの意見・提言	意見・提言等に対する改善策や普及指導計画への反映等
		適当	概ね適當	要改善		
課題の設定	①農業者や地域が必要とする課題であるか	2	1			
対象の選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	2	1			
活動体制・活動方法	③関係機関とうまく連携して活動しているか		3		指導農業士の利用も考えてはどうか。	活動内容に応じて、活用を検討していきたい。 (例)研修等での簿記記帳を通じた経営改善の工夫点や苦労したことの体験談など
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	1	2			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	1	2			
活動の成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	2	1			
活動の波及性と改善	⑦他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	1	2			
	⑧結果が十分でないものは今後の対策を考えられているか	1	2			

令和6年度外部評価会 集計表(関係者用)

所属名：鹿児島地域振興局農政普及課日置市駐在

課題名① 日置地域を支える担い手の育成～担い手への経営安定支援～						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの意見・提言	意見・提言等に対する改善策や普及指導計画への反映等
		適当	概ね適当	要改善		
課題の設定	①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか	2	1			
対象の選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	2	1		担い手をどこまでの範囲でとらえ、対象としていくか。	担い手の範囲及び対象については、認定農業者や認定新規就農者、集落営農組織を中心に捉えていく。
活動体制・活動方法	③関係機関と連携して活動しているか	2	1		関係機関とは数を増やして連携する機会をとらえる事	次年度以降も、担当者会等を通じた連携する機会を増やしていきたい。
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	2	1			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	2	1			
活動の成果	⑥農業者や地域・产地等の育成や成長に効果が上がったか	2	1			
	⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか	2	1			
活動の波及性と改善	⑧他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	2	1			
	⑨結果が十分でないものは今後の対策を考えられているか	2	1			



「ネギハモグリバエB系統」の特徴

- 1 従来のネギハモグリバエ（A系統）とは異なる遺伝子を持つ新系統
- 2 A系統に比べて、1葉当たりの産卵数が多く、5~10匹以上の幼虫が寄生し、一斉に食害する。
- 3 A系統に比べて、幼虫の食害痕（潜行痕）が太く、潜行速度も速いため、短期間で面的に白化する。



被害ほ場



通常ほ場



「ネギハモグリバエB系統」の特徴

- 4 卵と幼虫は葉内、蛹は土中、成虫は葉上と空中にいるため、防除が困難。
- 5 蛹は日置管内では土中で蛹越冬することが確認されており、年々、被害発生時期が早進化している。
初確認場所での被害時期 R3年：10月 → R4年：8月 → R5年：6月
- 6 被害範囲が急速広まっている。
R3年：東市来
R4年：東市来、伊集院、吹上
R5年：東市来、伊集院、吹上、日吉、市来



「ネギハモグリバエB系統」の対策

1 農開センターとの連携活動

(1) 農薬効果確認試験（東市来現地ほ場）

→調査結果から、農協担当者と連携し、下記の表を作成、配布

IRAC	農業名	キーワード	効果	残效	使用時期	総使用回数	倍率
3A	アグロスリン乳		卵～幼虫(但し老齢幼虫には効果低い)	2週間	収穫7日前まで	5回	2000
4A	ダントツ水		卵～幼虫(但し老齢幼虫には効果低い)	2週間	収穫3日前まで	4回	2000～4000
5	ティアナSC	前日	卵～幼虫(但し老齢幼虫には効果低い)	7日程度	収穫前日まで	2回	2500～5000
5	ダブルシューターSE		卵～幼虫(但し老齢幼虫には効果低い)	7日程度	収穫3日前まで	3回	1000
6	アグリメック		卵～幼虫(但し老齢幼虫には効果低い)	7日程度	収穫3日前まで	3回	500～1000
14	バダンSG水	老齢幼虫まで、前日	卵～老齢幼虫(老齢幼虫まで効果高い)	4日程度	収穫前日まで	2回	1500
14	リーフガード顆粒	老齢幼虫まで	卵～老齢幼虫(老齢幼虫まで効果高い)	4日程度	収穫3日前まで	2回	1500
28	ベネピアOD	前日	卵～幼虫(但し老齢幼虫には効果低い)	2週間	収穫前日まで	4回	2000
30	クレーシア乳	成虫	成虫に卓効あり	20日程度	収穫7日前まで	2回	2000～3000
30	プロフレアSC	成虫、前日	成虫に卓効あり	20日程度	収穫前日まで	3回	2000～4000

多発時のローテーション例：プロフレアSC → パダンSG → ベニビアOD（3～5日間隔で）

「ネギハモグリバエB系統」の対策

2 農開センターとの連携活動

(1) 多発させないための農薬散布ローテーション表の作成

→7~10日間隔散布を推奨されたが、下記の新体系表（月2回）を園振協で作成し配布

根深ねぎ ネギハモグリバエ防除体系		月	作業	散布薬剤	IRAQコード	回数	ハモグリバエ類	シロイヂヨトウ	スリップ*スズキ
3月	は種								
4月	育苗			ペリマークSC (灌注)	28	①	○	○	○
	定植			スタークル粒剤	4A		○	○	○
5月				ダンツ粒剤	4A		○	●	○
6月				カスケード乳+アグロスリン乳	3A, 15	②	○	○	○
				スタークル粒剤	4A		○	○	○
7月				ダンツ木+グレーシア乳	4A, 30	③	○	○	○
				ダンツ粒剤	4A		○	●	○
8月				アグリメック+トレボン乳	6, 3A		○	○	○
				ブリロッソ粒剤	28		○	○	○
9月				ベキビアロD+プロフレアSC	28, 30	④	○	○	○
				アクタラ粒剤	4A		○	●	○
10月				ディニアSC+アグロスリン乳	5, 15	⑤	○	○	○
				※バダンSG水溶 リーフガード噴霧水和は補完防除(10月以降で重点散布)					

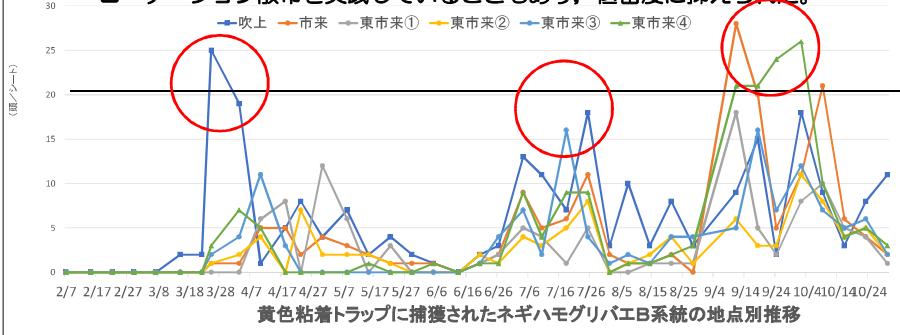
「ネギハモグリバ工B系統」の対策



3 前年度多発ほ場でのトラップ調査 (R6.2.1~11月13日)

→吹上、市来：各1力所、東市来：4力所

→ローテーション散布を実践していることもあり、低密度に抑えられた。



「ネギハモグリバエB系統」の対策

4 越冬蛹対策のための石灰窒素消毒の効果確認

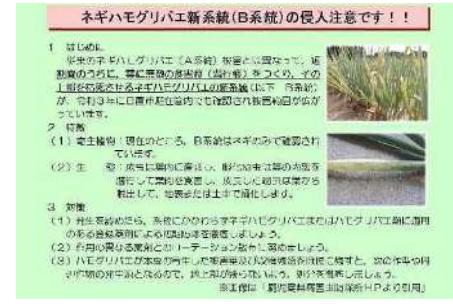
→ 東市来：1力所（被覆期間：R6年2月15日～3月25日、39日間）

→越冬蛹対策をはじめ、雑草対策効果も確認できた



「ネギハモグリバエB系統」の対策

5 家庭菜園等で根深ねぎを栽培している方への情報提供
→農協担当者と管内被害状況を確認したところ、家庭菜園での被害が多かった
→管内全戸に回覧される「普及だより」で、
周知し、対策を促した。



令和4年8月号



令和5年12月号

「ネギハモグリバエB系統」対策の結果

1 R3～5年度は管内でも激発ほ場が多数みられ、
ほ場廃棄に至った事例もあったが、R6年度産は
無被害～少被害に抑えられた。

2 R6年8月以後、県内他産地（特に伊佐地区）で激発ほ場が発生し、防除に苦慮しているとの情報も開発C等からあったが、管内は無被害だった。

主な減収要因

- 1 難防除害虫「ネギハモグリバエB系統」の被害拡大
- 2 難病害「白絹病、特に軟腐病」の多発

3 その他



白絹病



軟腐病

根深ねぎは、白絹病に罹病後、軟腐病に罹病することが多い。

「難病害」の対策

1 難病害（白絹病、軟腐病）に特化した農薬表及びローテーション表の作成・配布
→農薬毎に効果（予防、治療、浸透性、残効性等）を記載
→管理作業に合わせたローテーション表の作成

「難病害」の対策

- 2 現地検討会時に排水対策の指導
→明きよ排水（溝切り）等の実演など
- 3 土壌物理性調査（排水性）の実施・改善指導
→試掘調査後、対策処方箋作成・説明・実践



病害虫以外の要因による減収要因調査

1 定植後株数の追跡調査 (R5年度)

ほ場名	定植日	区名	調査（定点）
H(東市来)	5月10日	Hほ場(5月)	7m×2カ所
I1(伊集院)	5月11日	I1ほ場(5月)	7m×2カ所
I2(伊集院)	6月25日	I2ほ場(6月)	5m×2カ所

2週間置きに、農協担当者と株数を追跡調査を実施

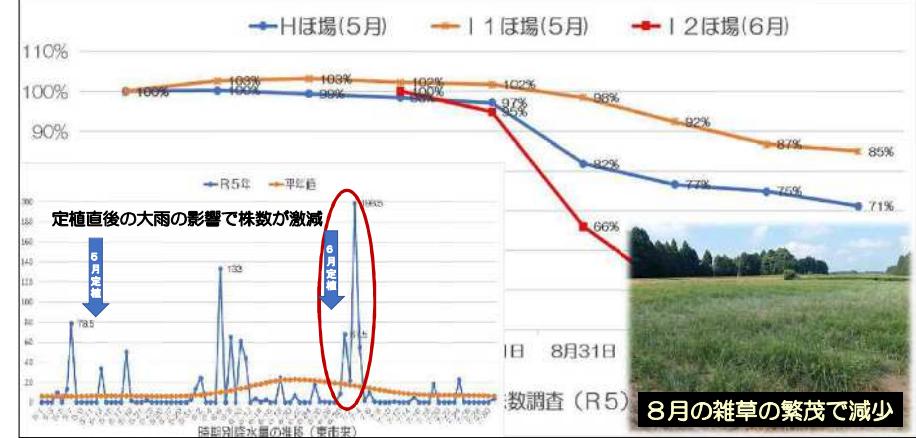


主な減収要因

- 1 難防除害虫「ネギハモグリバエB系統」の被害拡大
- 2 難病害「白絹病、特に軟腐病」の多発
- 3 その他



調査結果



得られた成果

- 1 ①ネギハモグリバエ農薬ローテーション散布表作成・説明
②虫齢別農薬特性表作成・説明
③発生消長調査と適期防除指導
によりR6年度はネギハモグリバエB系統の被害を大幅に軽減できた。
- 2 難病害（白絹病、軟腐病）は物理的・化学的・耕種的対策を示せたが改善の余地があることが判明した。
- 3 定植直後の大雨や雑草繁茂が定植後の生存株数の減少に大きく影響することが判明した。

御清聴、有り難うございました。

残された課題

- 1 さらなる効率的な難病害虫対策の確立による所得の向上
- 2 効率的な雑草防除の確立による省力化・単収向上
- 3 土壌理化学性改善による単収向上
- 4 根深ねぎを主体とした農家育成による産地の強化

